

令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松本 秀章
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	学長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
自然と環境	国文・子ども	1

②担任制度

担任 (1年生)		担任 (2年生)	
----------	--	----------	--

③委員会活動

運営協議会	委員長	SD委員会	
研究倫理委員会	委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員長	入学者選抜委員会	委員長
自己点検・評価委員会	委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員長
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

## 2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】  【子ども学科】
個人の教育理念・目標	<p>本学の使命（教育者の養成（理念）、人間形成（建学の精神）、地域に貢献できる人材養成（学則）等）を達成することを念頭に教育研究活動に精励することを目標としている。本学は広義で教育者を養成する高等教育機関であり、我々は教育者を養成する教育者である。学生に教えるということは、自らが試されていることであると捉え、教育内容の向上及び教育者としての資質を日々研鑽するよう努めている。</p> <p>また、本学の使命に加えて、教育による専門職業人及び地域コミュニティを支える職業人・社会人の養成という地方の私立短期大学としての使命を鑑み、学生が地域での実体験を通して学修成果を獲得できるよう努めると共に、学長として本学が永続的に教育研究活動を行い、地域の人材輩出を担う使命を達成できるよう、大学運営や地域連携の活動を重視している。</p>

## 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>学科が当該科目に指定する目標（DP）を達成させることはもちろんであるが、教育者・社会人としての資質を向上させるような知識・技能を積極的に取り入れるように努めている。また、本学が目指す人材像を鑑み、人間的な関わりを大切にしている。学生にとって学長という肩書が障壁とならぬよう、言語的なコミュニケーションに限らず、非言語的コミュニケーション（柔らかい話し方、節度をもったカジュアルな服装、笑顔を意識した表情等）を意識しながら、一教員として双方向の授業が実現できるよう工夫に努めている。</p>
授業以外（学生支援等）	<p>学生との交流の中で目標を達成できるよう努めている。そのために、まずは意図的に学生と関わろうとする意識、次に具体的な行動が肝要であると考えている。授業が少なく、学生と関わる機会が少ないため、対面の交流に加えて、ICTも積極的に活用している。</p>

## 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>教育者・社会人としての資質となる汎用的な力を養成するため、グループワークやフィールドワーク等を導入し、学生の指導・支援に努めた。ルーブリックを用いた成績評価において全員が単位認定されたことから、一定の成果があったと評価する。</p> <p>また、アクティブラーニングを通じて学生と積極的に関わることができた。授業を契機にキャンパインストラクター資格の取得や、ボランティア参加に多数の希望者が出たことから、一定の授業への関心や理解が見られたと評価する。</p>
授業以外（学生支援等）	<p>サークル、ボランティア、公開講座といった課外活動に主体的に取り組み、学生の参加を得て、盛況に終わることができた。</p>

## 5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>授業改善に努めながら、原点である学修者本位の教育（授業）に立ち戻り、再度、学生の主体的な学びや適切な成績評価等が行えるような教育を行う。</p> <p>フィールドワークに特化しすぎるのではなく、座学においてのアクティブラーニングの充実に取り組む。</p>
授業以外（学生支援等）	<p>担当授業の学修成果や学科のDP獲得に資するような、課外活動に取り組む。</p>

## 6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員としての資質	<p>学科長や事務局長との情報共有しながら、各部署での啓発に努めるよう指示した。自身においては、教授会等で啓発すると共に、常に言動に注意を払い、代表たる学長としての振る</p>
-----------	--

	舞いに努めた。
全学体制の募集	各所での本学の PR や営業に努め、結果として新規の教育連携の機会を得る等、PR 以外の部分でも成果があった。また、募集停止まで、SNS の発信に努め続けた。

#### 7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
  - ②令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
  - ③令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
  - ④令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
  - ⑤令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図
- 以上